

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：72622

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720334

研究課題名(和文) ジャウィ史料の利用によるマレー民族の形成過程の研究

研究課題名(英文) Research on the process of the development of the Malay nation by using Jawi materials

研究代表者

坪井 祐司 (Tsuboi, Yuji)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：70565796

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：ジャウィ新聞・雑誌の総合的な分析を通じて、言論活動という視角からマレー民族の形成過程の動態を明らかにした。雑誌『カラム』の分析から、マレー民族主義者を批判するイスラム知識人の思想とマレー人コミュニティ内部の論争を明らかにした。また、新聞『マジュリス』の分析から、マレー語紙と英語紙(非マレー人)との論争の存在を明らかにした。これらの相互作用的な論争空間を通じて、マレー民族が多様な意見の競合の過程で形成される過程を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study had revealed the dynamic process of the formation of the concept of the Malay nation through comprehensive analysis on Jawi periodicals. Controversies between the mainstream Malay nationalists, UMNO, and Islam-oriented Malay Muslims have been shown in Jawi periodical "Qalam". Meanwhile, controversies between Malays and non-Malays have been found in Jawi "Majlis" and English papers. The Malayness had taken its shape in the process of various interactions in the media space.

研究分野：マレーシア近現代史

キーワード：民族 マレー マレーシア メディア

1. 研究開始当初の背景

マレー人、華人、インド人などからなる多民族社会であるマラヤ(半島部マレーシア)において、マレー人という集団概念の形成過程は多くの研究関心を集めてきた。そのなかで、イギリス植民地期は、現在のマレー人の定義が確立した時代ととらえられる。植民地行政において西洋的な「人種」としてマレー人が概念化され、マラヤの土着民(natives)としての優遇政策がとられた。一方で、脱植民地化の過程でマレー・ナショナリズム運動が展開され、マレー人自身が自らの定義を獲得していった。

一方で、近年の研究においては、人口が希少かつ移動的であったマラッカ海峡周辺地域において、「マレー人性(Malayness)」が常に流動的・重層的であったことが指摘される。植民地期においても、マレー人のなかには、狭義のマレー人にくわえて多数の外来のマレー・ムスリム(マレー語話者のムスリムという意味でのアラブ系、インド系、インドネシアからの移民)が含まれていた。英領期以降のマレー民族の形成についても、この多様性を踏まえて再検討する必要がある。

特に、脱植民地化の過程は、もっぱら現在の与党の中核を占める UMNO(統一マレー国民組織)に代表されるマレー民族主義主流派の立場から語られてきた。この時期の民族概念も、民族主義的な歴史認識を相対化し、多様な勢力がマレー人という概念をめぐる競争する過程として描く必要がある。

2. 研究の目的

上記の状況をふまえて、脱植民地化期におけるマレー民族の形成過程は、マラヤのみならず近隣の国家にも視野を広げ、外来の出自を持つ者をも包含する形で再検討することが求められる。

本研究では、ジャウィ(アラビア文字表記のマレー語)の定期刊行物の分析を通じて、この課題の解明に取り組む。1920年代以降、ジャウィによる定期刊行物の発行は隆盛期を迎えた。ジャウィの定期刊行物は、頻繁な引用、相互参照が特徴であり、さまざまな集団、思想が交わる空間であった。その空間は、マレー語が流通するマレーシア、インドネシアなど複数の国家にまたがっていた。このため、テキストとその連関に着目することで、国家単位で進められてきた従来の研究を批判的に検討し、島嶼部東南アジアという広い文脈のなかでマレー民族の形成過程を分析することができる。

そのなかで、中心的に扱う史料は、1950、60年代にシンガポールで発行された月刊誌『カラム(Qalam)』である。同誌は、政治を中心に、同時代の東南アジアのムスリム社会を題材とした幅広い記事を掲載した総合誌であった。同誌の編集者エドルス(Edrus)は、カリマンタン出身のアラブ系ムスリムで

あった。くわえて、出版地が混血者や外来生まれのムスリムが多いシンガポールであることから、同誌は外来のマレー・ムスリムの視点を代表する。このため、マラヤの民族主義主流派の主張を相対化することが可能である。さらに、同誌は発行期間が長く、1950、60年代というマラヤの脱植民地化の時期をほぼカバーしていることも重要である。

さらに、『カラム』の分析に並行して、その他のジャウィの定期刊行物を適宜参照し、マレー語による言論空間全体を分析することを目指す。これは、比較・対象による系譜的な分析によって『カラム』の史的な位置づけをより明確にするためである。くわえて、ジャウィの定期刊行物を一つの資料群としてとらえ、そのテキストの連関を明らかにする試みとしても位置付けられる。

これらの作業を通じて、マレー語の言論空間におけるさまざまな相互作用のなかでマレー民族の概念が形成される過程を明らかにする。

3. 研究の方法

具体的な方法論として、研究開始の段階で以下の三点の課題を設定した。

課題(1)『カラム』の分析により、そこに描かれるマレー人概念を明らかにする。さらに、華人など他民族への認識も含め、マラヤの多民族からなる社会秩序全体に対する認識を明らかにする。

課題(2)『カラム』の分析により、同誌がシンガポール、インドネシアなどマレー人が少数派であった地域・国家に対してどのような働きかけをしたかを明らかにする。

課題(3)他のジャウィの定期刊行物を取りあげ、その比較、対照によって言説の系譜を明らかにする。

課題(1)、(2)を通じて、『カラム』の言説を東南アジアの多民族社会におけるマレー・ムスリムという全体の文脈へと位置付け、さらに課題(3)によってマレー民族の形成における外来者の役割という論点を明確にすることを試みた。

中心となる史料の『カラム』については、京都大学地域研究統合情報センターが所蔵するデジタル資料およびデータベースを利用する。そして、同センターが進めているマレー語雑誌記事データベース・プロジェクトおよび共同研究と提携しながら進めた。本研究は、情報学をはじめ様々な研究分野の研究者との共同作業の一環として位置づけることができる。

課題(3)については、期間中にシンガポール、マレーシア、イギリスを中心とした諸機関が所蔵するジャウィの定期刊行物の調査を行った。その結果、1930年代にクアラルンプルで発行されたジャウィの新聞『マジュリス(Majlis)』を選定し、収集した。この新聞は『カラム』同様に移民の出自を持つマレ

一人により編集されていることから、比較の対象として適切と考えたためである。『マジユリス』は、シンガポール国立大学が所蔵するマイクロフィルムを利用した。

4. 研究成果

項目5で後述するように、編著5点、論文8点、研究発表・講演13点の成果を得た。そのなかには英語論文5点、英語による研究発表9点が含まれており、マレーシアを中心に、国際的な研究成果の発信に努めた。それらの内容は、以下の5点に集約される。

(1) 外来のマレー・ムスリムがマレー民族の形成に果たした役割の重要性

1930年代の『マジユリス』、1950、60年代の『カラム』は、当該時期のマレー語言論空間で重要な役割を果たした。前者の初代編集者アブドゥルラヒム・カジャイはインドネシア系、後者の編集者エドルスはアラブ系であるが、それぞれマレー民族概念について積極的に意見を述べた。多様な出自を持つ人びとが参加できる開放性は、マレー語の言論空間の大きな特徴である。

従来の研究では、マレー・ナショナリズム運動の展開の過程で外来者が排除されていたことが強調されるが、外来のマレー・ムスリムによる出版活動は継続している。彼らの言説は、外来者がマレー人という枠組みへ参入する動的な過程を明らかにするとともに、マレー人の自己定義に収斂しがちな既往研究を相対化するものである。

(2) 国境を越えたマレー・ムスリムの連帯への模索

『カラム』の発行時期は、インドネシア、マラヤ（マレーシア）、シンガポールという独立国家が誕生した時期にあたり、国ごとに独立・国家建設の過程として歴史が描かれてきた。しかし、『カラム』の執筆者にはシンガポール、マラヤだけではなくインドネシアのムスリムも含まれており、その分析から、当時のムスリム知識人がこれらの国々が独立国家となっても、互いの政治情勢を観察し、さまざまな形で国境を越えたムスリムの連帯を模索していたことが明らかになった。

【雑誌論文5】（項目5を参照、以下同様）では、『カラム』の編集者エドルスがインドネシアの政治情勢を子細に観察し、同国にイスラム勢力の動向を伝えていたことを明らかにした。【図書3】では、同誌が中東を中心としたイスラム世界の諸地域の事情を伝えていたことを示した。

(3) 民族主義への対抗軸としてのイスラム主義

『カラム』は、マラヤにおける民族主義者（UMNO）の有力な批判者であった。同誌は、UMNOがイスラムを十分に代表していないことを批判し、それに代わるイスラム勢力の組織化を提唱したことを示した。

【雑誌論文3】では、『カラム』に代表さ

れるムスリム知識人の脱植民地化に際してどのような戦略を持ったかを示した。それは、近代主義にもとづき、イスラムを既存の国家機構へと制度化していくことであった。彼らがイスラム国家の樹立という自らの主張を前面に出すだけでなく、状況に応じて柔軟な戦略をとって自らの地位を確保しようとしたことを明らかにした。

【雑誌論文6】では、シンガポールで起こったムスリム暴動を題材に、イスラム教への改宗者の司法管轄をめくり、制度の整備を訴えたことを示した。【雑誌論文8】では、マラヤの独立（1957年）を批判的に論じ、民族主義者の独裁の防止、イスラムの制度化の必要性を訴えたことを示した。

(2), (3)をあわせて、マラヤにおける民族・国民国家形成が単線的なものではなく、競合的な状況の中で発展したことを示した。とくにイスラム教の位置づけは有力な対立点であり、『カラム』からは、その後の1970年代のイスラム化へとつながる思想の潮流がこの時期のマレー・ムスリムコミュニティにも存在することが明らかになった。

(4) 島嶼部東南アジア地域の政治・社会秩序のあり方

マレー民族をめぐる言論を通じて、多民族からなるこの地域の政治・社会秩序のあり方を明らかにした。人口の流動性、多様性の高いこの地域において、民族集団が形成される過程は、移民を含めた集団枠組みの不断のとなおしの過程であり、他者との関係性のなかで形成されるものであった。

【図書1】では、『カラム』の読者投稿から、当時のマレー・ムスリム読者が異なる価値観を持つムスリム、非ムスリムとの関係性をもつなかで、宗教的な正しさを模索していたことを示した。【雑誌論文1】では、『マジユリス』が頻繁に英語紙を引用しながら論争を行っており、マレー民族概念についても非マレー人との関係性が大きく影響していることを示した。

脱植民地化を通じて新たな社会秩序が形成される過程で、マラヤでは多様な集団が他者との関係を築きながら社会秩序を構築したことを明らかにした。

(5) マレー民族が、さまざまな勢力の競合により形成される過程

研究全体として、『カラム』、『マジユリス』とも、さまざまな勢力（外来のマレー・ムスリム、イギリス、華人などの非マレー人）との間で相互作用を起こしながら論説を展開していったことを明らかにした。このため、当該の媒体単体のみならず、それを取り巻く言論空間全体として理解する必要がある。そうした論争の結果、マレー民族の輪郭が浮かび上がった。

ここから、島嶼部東南アジアにおける脱植民地化に際して、さまざまな勢力の競合の結果としてマレー民族の枠組みが形成される動的過程を見出すことができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8件)

1. 坪井祐司「1930年代初頭の英領マラヤにおけるマレー人性をめぐる論争：ジャウィ新聞『マジュリス』の分析から」『東南アジア歴史と文化』45(2016) pp.5-24。(査読有)
2. Tsuboi Yuji, 'The Formation of Multicultural Public Sphere in British Malaya: Controversies around Malayness during the 1930s', in Sawai, Sai and Okai (eds), *Islam and Multiculturalism: Exploring Islamic Studies within a Symbiotic Framework*, Tokyo: Organization of Islamic Studies, Waseda University (2015), pp.104-111. (査読無)
3. 坪井祐司「宗教の制度化、民族の制度化 1950年代前半のマラヤ政治と『カラム』の戦略」『マレーシア研究』3(2014)、pp. 29-46。(査読有)
4. Tsuboi Yuji, 'The Malay Society During the Transition of the Selangor Administration in the Late 19th Century', *Sarjana (Journal of the Faculty of Arts and Social Sciences, University of Malaya)* 29-1 (2014), pp.19-30. (査読有)
5. Tsuboi Yuji, 'Islam, Politics, and Nationalism in Malaya from the Perspective of Muslim Intellectuals on the Opposite Shore', "*Islam and Multi-culturalism: Coexistence and Symbiosis*". Tokyo: Organization for Islamic Studies, Waseda University (2014), pp.229-236. (査読無)
6. Tsuboi Yuji, 'Muslims under Dual Jurisdictions: The Nadrah Issue from the Perspective of Qalam, in Yamamoto Hiroyuki et al (eds), *Dari Warisan ke Wawasan (From Tradition to Vision): Selected Readings on Majalah Qalam (Volume 1)*. Bangi: Klasika Media(2013), pp.60-80. (査読無)
7. 坪井祐司「英領マラヤにおけるマレー人像の相克：スランゴール州における対マレー人土地政策の展開」『マレーシア研究』2(2013.10) pp.72-87。(査読有)
8. Tsuboi Yuji, 'Jawi Publications as a Political Arena: Malayan Decolonization from the Perspective of Islamic Intellectuals', in Asia-Europe Institute and Organization for Islamic Area Studies(eds), *Islam and Multiculturalism: Islam, Modern Science, and Technology*, Tokyo: Organization for Islamic Area Studies, Waseda University (2013), pp.178-192. (査読無)

[学会発表](計 13件)

1. Tsuboi Yuji, 'Everyday Forms of Islamic Practices in Multi-ethnic Malaya', "Toward social history of Malay Muslims: Islamic principles and local practices from the perspective of Majalah Qalam (1951-1969)" (Dewan Bahasa dan Pustaka, Kuala Lumpur, Malaysia, 2016年2月22日)。
2. 坪井祐司「ブミプトラとは誰か？ マレーシアにおける民族と政治」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所コタキナバル・リエゾンオフィス邦人向け講演会(招待講演、コタキナバル日本人学校、Kota Kinabalu, Malaysia, 2016年1月7日)。
3. Tsuboi Yuji, 'Malayness under multilingual controversies in British Malaya during the 1930s', "The 9th International Convention of Asia Scholars (ICAS9)" (Adelaide, Australia, 2015年7月7日)。
4. 坪井祐司「1930年代の英領マラヤにおけるマレー人の地位をめぐる論争 ジャウィ新聞『マジュリス』の分析から」東南アジア学会第93回研究大会(愛媛大学、愛媛県松山市、2015年5月30日)。
5. Tsuboi Yuji, 'The Formation of the Multilingual Public Sphere in British Malaya: Controversies around Malayness during the 1930s', "International Seminar on Islam and Multiculturalism: Exploring Islamic Studies within a Symbiotic Framework" (Universiti Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia, 2014年12月14日)。
6. 坪井祐司「クアラルンプルの歴史」(招待講演、Muzium Negara Malaysia, Kuala Lumpur, Malaysia, 2014年8月22日)。
7. Tsuboi Yuji, 'World view of Malay Muslim intellectuals during the 1950s', "The 9th International Malaysian Studies Conference" (Universiti Malaysia Terengganu, Kuala Terengganu, Malaysia, 2014年8月19日)。
8. Tsuboi Yuji, 'Islam, Politics, and Nationalism in Malaya from the Perspective of Muslim Intellectuals on the Opposite Shore', "*Islam and Multi-culturalism: Coexistence and Symbiosis*" (早稲田大学、東京都新宿区、2013年12月21日)。
9. Tsuboi Yuji, 'Malays as Natives: Conceptualization of Malays in British Malaya', Conference "Framing Asian Studies: Geopolitics, Institutions and Networks" (Institute of Asian Studies, Leiden, the Netherlands, 2013年11月19日)。
10. 坪井祐司「マレー半島におけるイギリス植民地統治と多民族社会」(招待講演、Muzium Negara Malaysia, Kuala Lumpur, Malaysia, 2013年9月13日)。

11. Tsuboi Yuji, ' Alternative Perspective of Malay Muslims from Singapore ', " Dari Warisan ke Wawasan (From Tradition to Vision) " (Hotel Putra, Kuala Lumpur, Malaysia, 2013 年 9 月 11 日).

12. 坪井祐司「ラッフルズと海の東南アジアの“近代”」(東洋文庫と本の世界 III)(東洋文庫、東京都文京区、2013 年 6 月 17 日)

13. Tsuboi Yuji, ' Jawi Publications as a Political Arena: Malayan Decolonization from the Perspective of Islamic Intellectuals ', " Islam and Multiculturalism: Islam, Modern Science, and Technology " (Universiti Malaya, Kuala Lumpur, Malaysia, 2013 年 1 月 6 日).

〔図書〕(計 5 件)

1. 坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代 VII: コラム「千一問」にみるマレー・ムスリムの宗教実践』(CIAS Discussion Paper No.62) 京都大学地域研究情報統合センター (2016) 95 ページ(担当部分 4-14 ページ)。

2. 坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代 VI: 近代マレー・ムスリムの日常生活 2』(CIAS Discussion Paper No.53) 京都大学地域研究情報統合センター (2015) 36 ページ(担当部分 4-9、17-27 ページ)。

3. 坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代 V: 近代マレー・ムスリムの日常生活』(CIAS Discussion Paper No.40) 京都大学地域研究情報統合センター (2014) 42 ページ(担当部分 4-18 ページ)。

4. 坪井祐司・山本博之編、ファリダ・モハメッド協力『ジャウイを学ぶ』(CIAS Discussion Paper No.38) 京都大学地域研究情報統合センター(2013)、128 ページ(担当部分 44-49、98-107 ページ)。

5. 坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代 IV: マレー・ムスリムによる言論空間の形成』(CIAS Discussion Paper No.32) 京都大学地域研究情報統合センター (2013) 41 ページ(担当部分 4-8、21-27 ページ)。

〔その他〕

ホームページ等

『カラム』雑誌記事データベース：
<http://majalahqalam.kyoto.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坪井 祐司 (TSUBOI Yuji)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：70565796

研究協力者

・山本 博之 (YAMAMOTO Hiroyuki)

京都大学地域研究統合情報センター准教授

・西 芳実 (NISHI Yoshimi)

京都大学地域研究統合情報センター准教授

・篠崎 香織 (SHINOZAKI Kaori)

北九州市立大学外国語学部准教授

・國谷 徹 (KUNIYA Toru)

上智大学研究員

・光成 歩 (MITSUNARI Ayumi)

国立国会図書館非常勤研究員

・金子 奈央 (KANEKO Nao)

アジア経済研究所リサーチアソシエイト

・亀田 堯宙 (KAMEDA Akihiro)

京都大学地域研究統合情報センター助教

・モハメド・シュクリ (Mohamed Syukri)

Director, Klasika Media, Malaysia